

### “変身願望”とクルマ選び。

モータージャーナリスト、レーシングドライバー、そしてチューナーと多方面で活躍する太田哲也が、世の中に自らのオピニオンを直球で発信し世相を斬る「俺の話を開け!」。

第14回のテーマは、太田流の“変身願望”を叶えるクルマ選び。クルマの選択によって自分自身をイメチェンし、新たなライフスタイルを演出。ツールとしてのクルマ選びを唱える。

TEXT●太田哲也 (Tetsuya Ota)  
PHOTO●ATO

## 太田哲也の

# オレの話を開け!

### 愛

車を選ぶ際、何を重視するだろうか。性能や品質かな。でもオレの場合は自分がどんな気分になるかをけっこう気にする。

職業柄、性能に関しては、スペックをみれば乗らなくても大体は見当が付く。けれども自分の気持ちはどう動くかは、乗ってみたいとわからないものだ。

そんな訳で、毎年2月に開催されるJAA試験会（日本自動車輸入組合主催）は格好の場だ。

本来的には、多くのモータージャーナリストにとって、一度に多くの車種に乗って比較ができるよい機会だ。普段はジャンル違いで取材対象にならない車種にも乗れる。

だがオレにとってのJAAはそういう目線ではなく、自分がどんな気持ちになるかに興味がある。もしオーナーになったらどんな楽しみが広がるか。中には自分にはフィットしないと思っていたクルマに楽しさを見つけ、大きな刺激を受けることもある。愛車にしたなら新しい自分が起動しそう。そんな発見もある。その逆もある。何台かあげてみよう。

### ランボルギーニ・アヴェンタドール

そもそもオレは20代の頃は、モータージャーナリスト活動も含めて他の仕事をしていなくて、まったくのレース専業だった。そしてプロとして、周囲が抱くイメージを壊さないようにした方が得策だと考えていた。本来はそんなに贅沢がしたいわけでもなく、家やホテルでのんびりと音楽を聞き読書するのが好きなのだが、アクティブなイメージが求められる。それに応えようとして十年も過すと、そもそも自分のキャラクターがどれたったかわからなくなり、演じていたキャラが本来の自分のようになっていく。



な気もしてくるものだ。プロドライバーに限らず、職業とはそういうものだろう。

30代のとき、フォーミュラやプロトタイプを引退し、GTレースでフェラーリに乗るようになった。そしてモータージャーナリスト活動も本格的に始めた。フェラーリをはじめとするスーパースポーツに乗る機会がぐっと増えた。だからアヴェンタドールは、本来の自分のイメージの範疇だと思つた。

ディアブロの後を継いだムルシエラゴの後継だが、ディアブロに比べて本当に運転しやすくなった。視界も操作系もよく、その気になれば昔

段使いも可能。進化を感じた。

足は硬く、それはもはや「なんちゃってスーパースポーツ」ではない。運動性もまじめに重視していた。ただ個人的にはちよつと疲れるかな。一番疲れるのは、道行く人々が自分を見ることだ。

人によるだろうけど、オレは日常であんまり注目されたくない。それに、その性能を發揮できるサーキットを走らないともったいないと思つた。



### BMW 3 Series

「ドイツ車は足が硬い」は昔のことだ。ラグジュアリーな乗り心地で、低速域でも日系高級セダンを凌駕する。ボディがしっかりしていて足のチューニングが良く、ざわざわした「雑味」がない。さらに内装もそつなくまとまっている。完成度がとても高かった。

そうしたモノとしての良さを認めつつ、個人的に愛車にしたいかと言えば、よくわからない。自分を強く刺激する「異質さ」がない。それこそが、いいクルマの条件なのだろう。

### ジャガーFタイプ

このクルマには乗りたかつたのだ。個人的なことだが、昔、幼稚園の頃、家の事情で数か月間従兄の家に預けられたことがある。母親から、寂しいだろうからと「好きなミニカーを買ってあげる」といわれ、デパートで数あるモデルの中からジャガーEタイプを選んだ。格好よかつたなあ。従兄のプラモデルの塗料を借りて色を塗り替えた。

FタイプはEタイプの現代版なのかな。その登場をとても楽しみにしていたのだ。Fタイプはきつと感涙ものだろうと。実際に格好はよかつた。だが個人的にはEタイプとは違って見えなかつた。そつなく格好よ



ぎるのだ。Eタイプの格好よさは、鼻先が長すぎるアンバランスにあっただよった。

Fタイプの排気音は2段階に切り替えられる。「スポーツ」を選ぶとまるで直管のような爆音で、「ノーマル」でもシフトチェンジの度にけっこう大きい音を出す。個人的には吸排気サウンドは重要で、愛車のカスタムとしてマフラー交換は必須だと思っているが、そんなオレでも近所迷惑かなと思う。ビバリーヒルズなんかに住んでいないと難しいのかな。

## マセラティ・ギブリ

ドアを開けて乗り込んだ瞬間（まだエンジンをかける前）に、「このクルマが欲しい」と思った。

この空間にいるのが嬉しくて嬉しくて。たとえばコーヒーを飲むのもマックよりもスタバ（と言ってもオレはルノワール派のだが）、それよりも珈琲専門店。店の内装はコーヒーの味には関係ないが、適度なギブリの内装はもう座っているだけでいい。ベースはクライスラー300と共通らしいが見事に違う世界観を演出している。心地よいエンジンの鼓動も、これだけで買う価値はある。走らせてみれば、操作系もよくな



って、乗り味もよくなった。クアトロポルテよりもサイズが小さく魅力的だ（さらに小さい方がよいが）。個人的にどんびしゃ。



## VWサ・ビートルターボ

人もクルマもギャップがある方が魅力的に映るもの。そんなことをサ・ビートルターボのステアリングを握って改めて思った。

オレの中でサ・ビートルは、フアンやフェミニンという言葉が似合う女性もしくは男の子のイメージだ。クルマ好きだが、「こちら側のクルマ好き」とはまた違う。まあ少なくともオレのイメージではないわな。

ところがターボがついたサ・ビートルはキャラが変わった。加速がよくなってきつい上り坂の山道でも走りを楽しめた。するとそのカタチが往年のボルシエ356に見えてきた。

サ・ビートルはオレが乗るべきクルマではないと思っていたが、サ・ビートルターボはアリだな。レーシングストライプやサイドラインにボルシエのようにターボのロゴを入れて、車高調とマフラー替えて……。

## キャデラック・エスカレード

個人的な見解だが、ミニバンよりはマシンだがSUVも好まない。古い

人間であることを承知で、背高車はレーサーの華麗なイメージとは似合わないと思っっている。運転している姿を見られたくもない。しかもアメ車とくれば、オレのイメージではまったくない。そう考えていた。

エスカレードは広報試乗会もなく乗ったことがなかった。乗る気もなかった。ただ空き時間にすぐ乗れるので、それでは冷やかして乗ってみよう。だが、これはよかった！

ドアを開けると乗り込みやすいようにステップが出てくる。柔らかいシートに座った瞬間、ギブリとはまた違った「ザ・ハリウッド」という感じの洒落な内装に出会う。内外装にアメリカのよき時代を髣髴とさせられる。降りて改めて外観を眺めると、分厚いボンネットが醸し出す押し出しの強いデザインはなかなか良い。誰が見てもキャデラックと思っはす。エスカレードというネーミングもいい。

## 「変身願望や破滅願望を解放せよ！ 本誌読者よ、刺激や快感を求めたクルマ選びもしてみないか？」

ソツなくまとまったオーソドックスなデザインは万人に好まれ、特異

なデザインはユーザーを狭めるものだ。でも個性が立った特異なデザインの方が、飽きが来ず長く乗れることもある。高級車としても相応しい。

エスカレードは、オレのイメージとは明らかに違っている。でも今回の試乗でいちはん楽しかった。今の自分とは違った自分になれるような気がしたからだ。

——変身願望。あるいは破滅願望。職業や社会的地位を捨てて別の自分になりたい。こういう気持ちは誰にもあるのではないか。株の仲買人を辞めてタヒチに行く

て現地の愛人の絵を描いて過ごした。ゴキガンの生き方。多くの仕事人には羨ましい存在だろう。

先日、たまたま見たテレビ番組で、朝、出社する人に「このまま（会社へ行かずに）終点まで行きませんか」と誘う、とんでもない番組をやっていた。それで行くヤツはバカヤロウだが、でも少しだけわからないでもない。オレ自身、破滅願望を自分の中に感じることもある。でもそれをやったら社会人としてもう一生終わりと自覚して止めている。

普段抑制されている人ほど、魂を解放したいと思っっているのではないか。たとえば大会社の社長が、女装したりSMクラブでM男になったり、そんな話はよく耳にする。

まあ人に迷惑をかけなければ、さほどリス

クはないし、それもよいだろう。同様にクルマにも、あえてハズす、周りに期待されているイメージをぶっ壊して縛りから解放される。そんな選び方はどうだろうか。

そういう意味では、オレの場合は職業柄、たまたまランポよりもキャディの方がギャップが大きかった。でももっと堅い仕事だったら、普段はやはりメルセデスとかBMWのような「高級な実用車」を選ぶ。でもたまの土日は、スーパーカーのステアリングを握って、サーキットでアクセルを全開にして魂を解放する。そんな道も素敵だ。

巷のランポ乗りのすべてが派手好きで、弾けた日々を送っているわけではない。普段とは違う自分を演出したくて日常とのギャップを楽しんでいる人もいる。

もちろんただ一台のクルマがさうだと不具合があるだろうが、クルマのいいところは女房と違って複数所有が可能なこと。クルマ選びの方法論はひとつではない。

エスカレードに乗った自分を想像してみる。ワルを気取ってラッパ吹かな。……ファッションも変えなければならぬ。



## Tetsuya OTA出光 ENJOY&SAFETY DRIVING LESSON 2014年は5/18(日)と6/28(土)に開催予定!

「安全運転を、楽しく学ぶ!」をテーマに掲げるTetsuya OTAスポーツドライビングスクールは2014年も順次開催予定。現在、直近で予定しているのは5月18日(日)フインリンクもてぎにてドライビングスクールと体験試乗会をメインとした開催を予定。そして6月28日(土)には袖ヶ浦フォレストレースウェイにて通常のメニューで行う予定。詳しくは、ウェブサイトにて確認を。http://www.sportsdriving.jp